

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第9週 (2/25-3/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		9週	8週	7週	6週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	2/25-3/3	2/18-2/24	2/11-2/17	2/4-2/10	2/18-2/24
			9週	8週	7週	6週	8週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	7 0.39	2 0.11	5 0.29	31 0.23
	咽頭結膜熱		1 0.06	2 0.11	1 0.06	1 0.06	24 0.18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		44 2.44	46 2.56	38 2.11	68 4.00	450 3.41
	感染性胃腸炎		105 5.83	93 5.17	84 4.67	144 8.47	690 5.23
	水痘	○	16 0.89	10 0.56	9 0.50	6 0.35	55 0.42
	手足口病		2 0.11	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.04
	伝染性紅斑	↓	12 0.67	18 1.00	21 1.17	16 0.94	104 0.79
	突発性発しん		5 0.28	8 0.44	4 0.22	7 0.41	38 0.29
	ヘルパンギーナ		2 0.11	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		0 0.00	3 0.17	3 0.17	1 0.06	14 0.11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		168 6.00	203 7.25	298 10.64	808 29.93	1,737 8.19
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		3 0.60	1 0.20	1 0.20	3 0.60	10 0.29
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	画像検査等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第9週は、結核3件(24)、梅毒2件(6)、百日咳2件(19)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

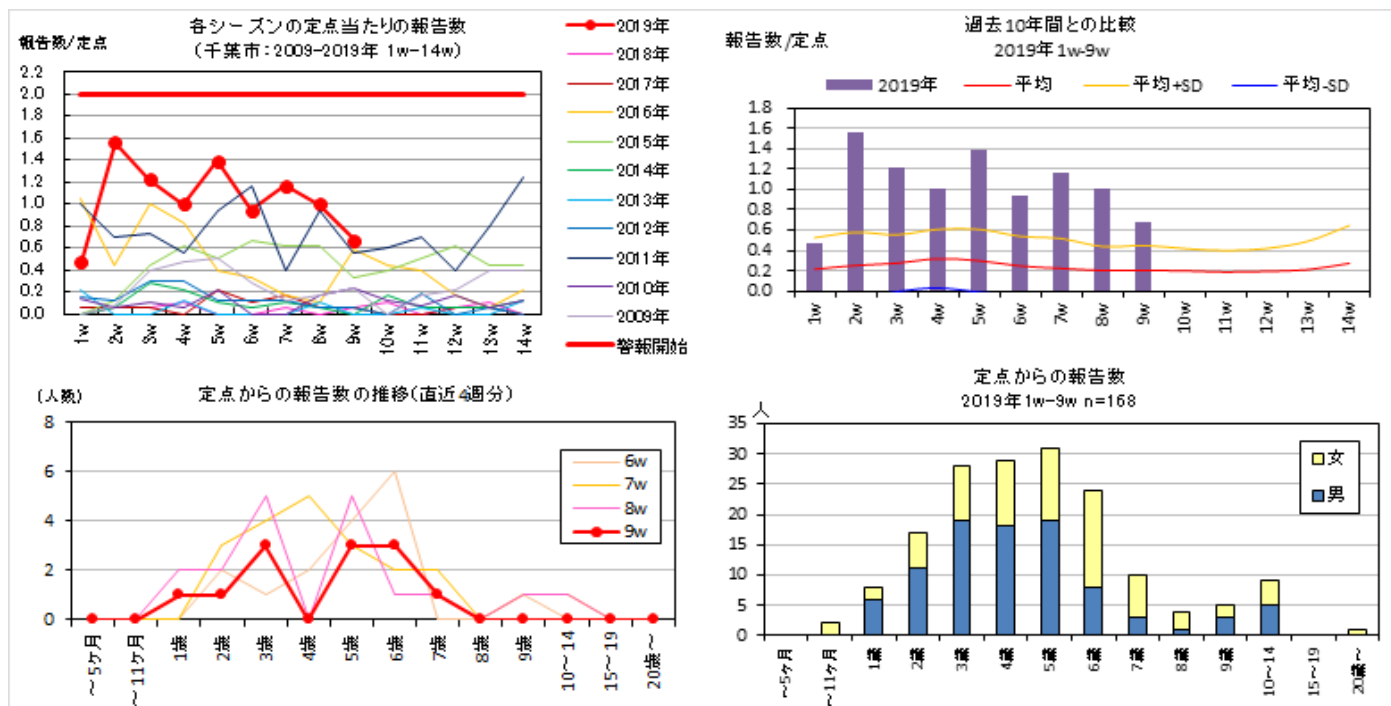
定点当たり報告数 第9週のコメント

＜水痘＞前週より増加し0.89となった。過去10年の同時期と比べると平均レベル。
 ＜伝染性紅斑＞前週より減少し0.67となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

トピック

<伝染性紅斑>

全国レベルの第8週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、新潟県及び沖縄県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第2週から減少傾向となっていますが高い水準で推移しており、第9週は前週より減少し0.67となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままととなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で流行発生警報終息基準値(1.0/定点)を上回り最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第9週までの累積報告数は168件で、性別では男性が55.4%(93名)、女性が44.6%(75名)となっており、年齢階級別では5歳(18.5%:31名)、4歳(17.3%:29名)、3歳(16.7%:28名)の順で多くなっています。



<水痘>

全国レベルの第8週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、宮城県、大分県及び宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第6週から連続して増加しており、第9週は前週より更に増加し0.89となり、過去10年の同時期と比べると平均レベルとなりました。区別の発生状況は、中央区(3.67/定点)で第8週から流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第9週までの累積報告数は73件で、性別では男性が64.4%(47名)、女性が35.6%(26名)となっており、年齢階級別では6歳(24.7%:18名)、5歳(16.4%:12名)、9歳及び10歳代前半(共に11.0%:8名)の順で多くなっています。

